

弘前市の新たな経営計画のイメージ

2014年
- 2017年

2018年
- 2021年

2022年
- 2025年

2026年
- 2029年

2030年
- 2033年

2033年

20年後の
弘前市の将来像
(めざすべき姿)

今後4年間の 新たな経営計画

市民等の行動計画
(実現に向けた役割)



ひとづくり

まちづくり

市役所の行政計画
(政策・施策・事務事業)



くらしづくり

しくみづくり



なりわいづくり



市役所

市民

大学等
研究機関

地域・
コミュニティ

民間
事業者

オール弘前（市民総参加）での取組により
持続的成長を目指します！

計画推進に向けたの6つの戦略（Strategy）

Strategy I オール弘前で

市役所、市民、地域・コミュニティ、民間事業者等によるオール弘前での計画の推進

Strategy II 確固たる基盤構築等

市民が安全・安心に生活していくための基盤の確立と故郷ひろさきへの誇りの醸成

Strategy III 成長に向け戦略的に

ビッグデータ・統計情報を分析し、成長に向けた政策を戦略的に展開

Strategy IV 社会課題の解決に

果敢に挑戦

子育て・健康・雪対策の社会課題の解決に挑戦し、弘前からその答えを発信

Strategy V 高い適応性

社会状況の変化や住民ニーズに応じて毎年見直し

Strategy VI 効率化最適化の追求

行財政改革や人事・組織の見直しなどにより執行体制の効率化・最適化を追求

議会によるチェック

「平成25年度 弘前市世論調査」集計結果の概要〔暫定版〕

1. 調査の目的

東日本大震災などの社会環境の変化や今後さらに進むと予想される人口減少・少子高齢化に対応するため、現在の基本構想を見直し、新たな総合計画策定の基礎資料とすることを目的としている。

2. 調査の対象

弘前市の全地域で住民基本台帳から16歳以上の男女を無作為に抽出し、対象とした。

3. 調査の方法

平成25年5月17日から6月2日の調査期間に調査員が訪問し、調査票を配付、後日回収。

4. 回収結果

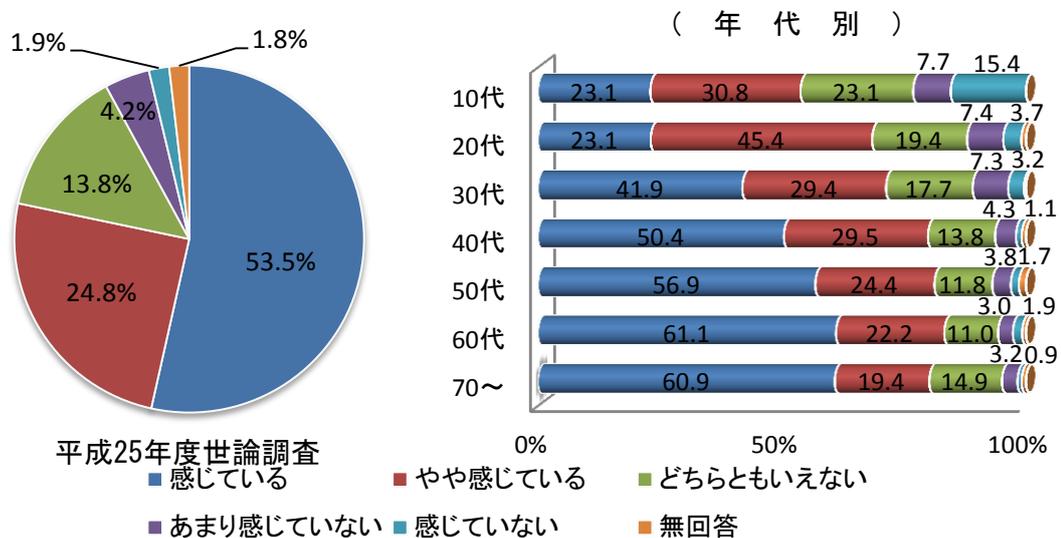
調査対象者 2,420人中、回答者 2,180人、回収率 90.1%。

5. 主な結果の概要

(1)弘前市に自分のまちとして愛着を感じるか

『あなたは弘前市に自分のまちとして愛着を感じますか。』とたずねたところ、「感じている」「やや感じている」と答えた人は合計で78.3%でした。一方、「感じていない」「あまり感じていない」と答えた人は合計で6.1%でした。

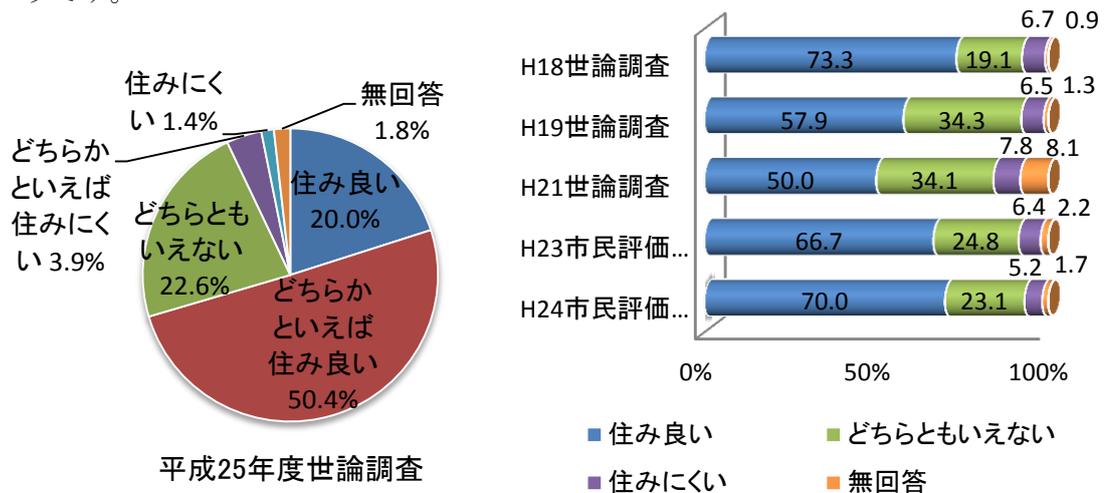
また年代別にみると、年代が高くなるほど愛着を感じている人の割合が高くなっている傾向となっています。



(2)弘前市の住みごころは

『総合的にみて、現在の弘前市の住みごころはいかがですか。』とたずねたところ、「住み良い」「どちらかといえば住み良い」と答えた人は合計で70.4%でした。一方、「住みにくい」「どちらかといえば住みにくい」と答えた人は合計で5.3%でした。

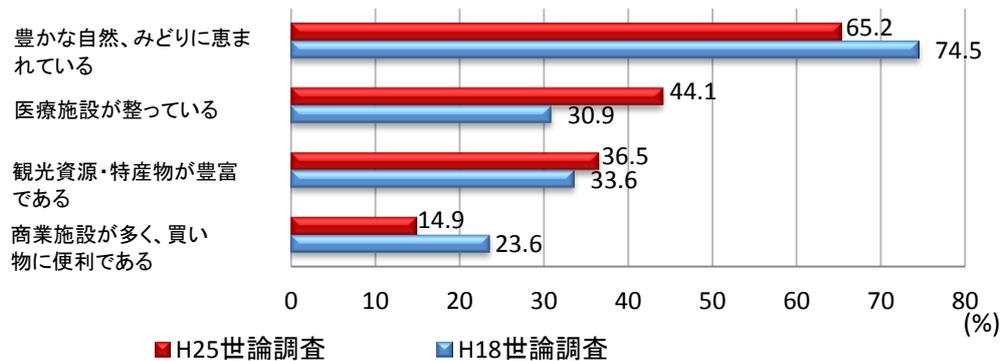
また平成21年度世論調査時までは「住み良い」が減少傾向にあったものの、以降は増加傾向にあり、現在は7割の人が「住み良い」と感じているようです。



①魅力・よい点について（16項目中上位3項目、比較減少1項目）

「豊かな自然、みどりに恵まれている」が65.2%で最も多く、次いで「医療施設が整っている」44.1%、「観光資源・特産物が豊富である」36.5%の順となりました。

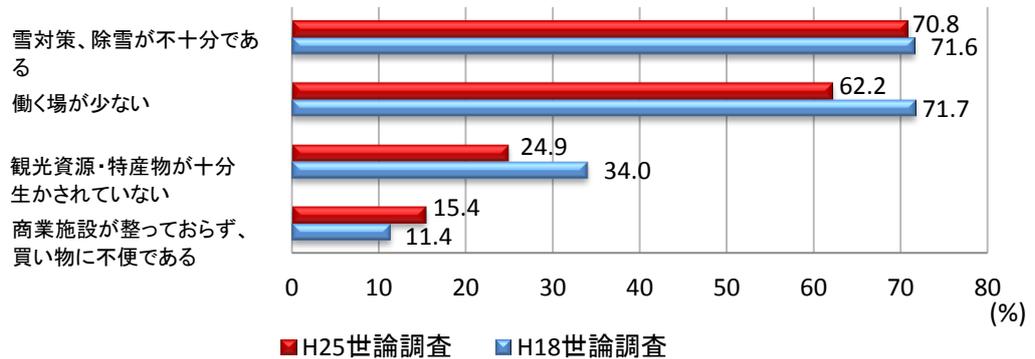
また、平成18年度世論調査時に比べ、「医療施設が整っている」が13.2%増加しているものの、「豊かな自然、みどりに恵まれている」が9.3%、「商業施設が多く、買い物に便利である」が8.7%減少しました。



②悪い点・欠点について（16項目中下位4項目）

「雪対策、除雪が不十分である」が70.8%で最も多く、次いで「働く場が少ない」62.2%、「観光資源・特産物が十分に生かされていない」24.9%の順となりました。

また、平成18年度世論調査時に比べ、「働く場が少ない」が9.5%、「観光資源・特産物が十分に生かされていない」が9.1%減少し、「商業施設が整っておらず、買い物に不便である」が4.0%増加しました。

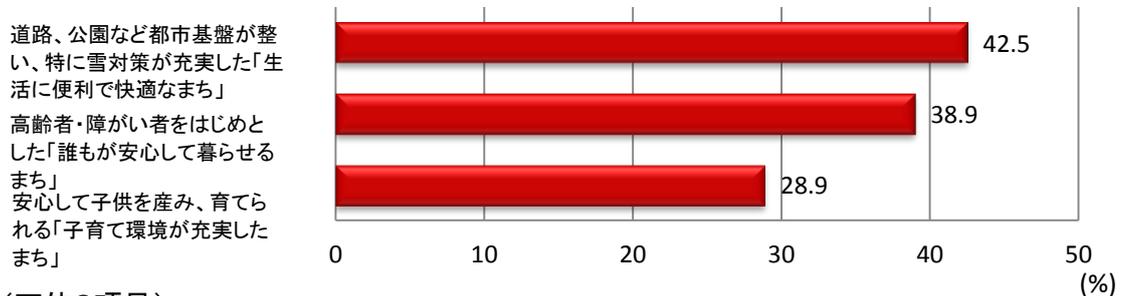


(3)弘前市の将来像について

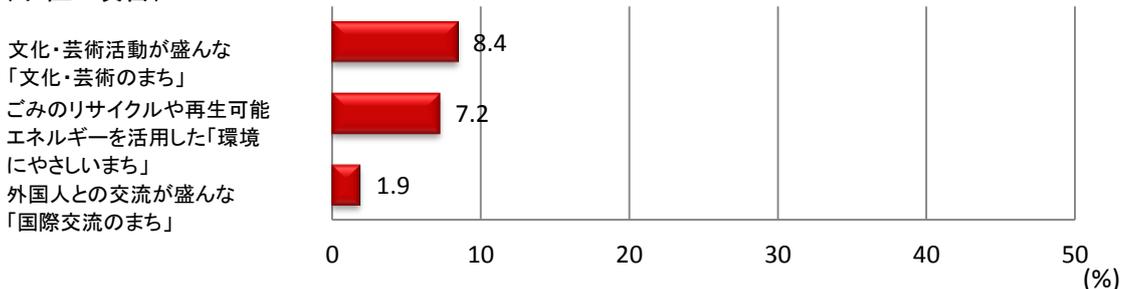
弘前市の将来の都市像について、「生活に便利で快適なまち」が42.5%で最も多く、次いで「誰もが安心して暮らせるまち」38.9%、「子育て環境が充実したまち」28.9%の順となっています。

一方で、下位は「文化・芸術のまち」8.4%、「環境にやさしいまち」7.2%、「国際交流のまち」1.9%の順位となっています。

(上位3項目)



(下位3項目)

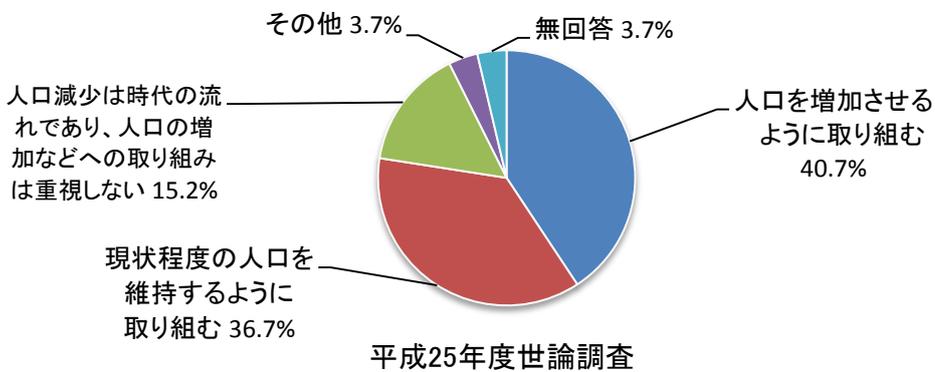


(4)今後の市政運営について

①人口対策について

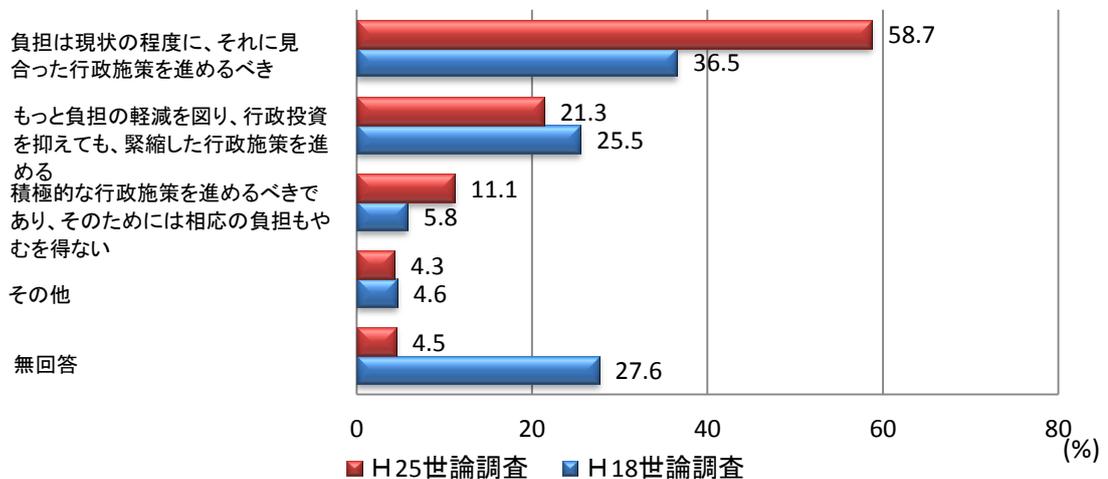
『弘前市の人口は平成52年には、130,978人にまで減少するとともに少子高齢化が一層進むと推計されています。このような中で、弘前市はどのような方向に進むべきだと思いますか。』とたずねたところ、「人口を増加させるように取り組む」と答えた人は40.7%、「現状程度の人口を維持するように取り組む」が36.7%でした。

一方、「人口減少は時代の流れであり、人口の増加などへの取り組みは重視しない」と答えた人は15.2%でした。



②市政運営について

『限られた財源のなかで様々な行政課題に対応していくために、今後どのような市政運営が必要であると思いますか。』とたずねたところ、「負担は現状の程度に、それに見合った行政施策を進めるべき」と答えた人が最も多く58.7%となり、平成18年度世論調査時より22.2ポイントの増加となりました。

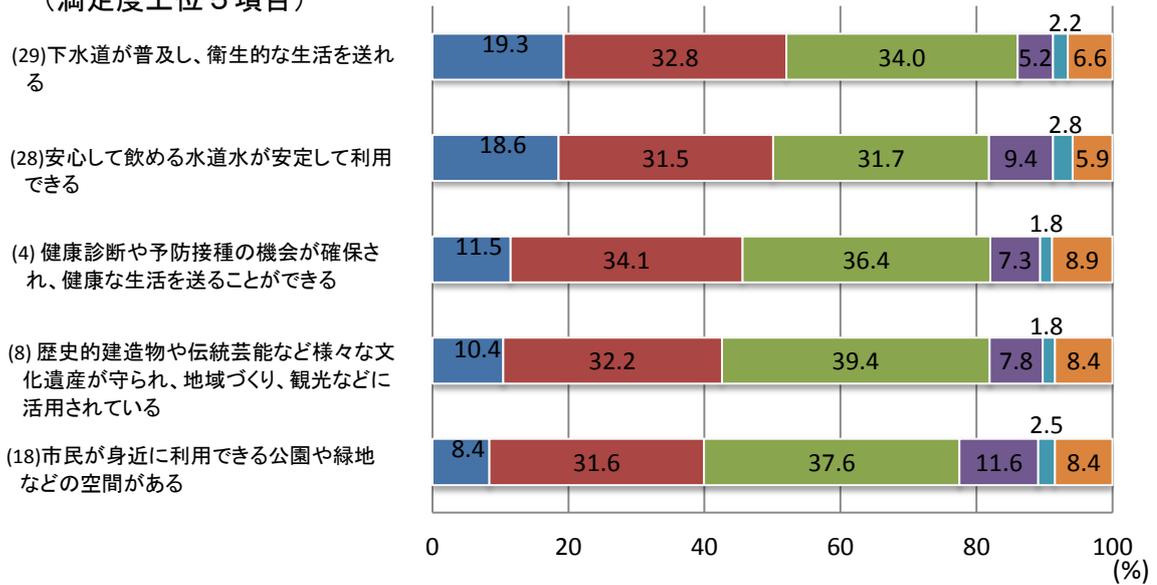


(5)満足度について

「下水道が普及し、衛生的な生活を送れる」や「安心して飲める水道水が安定して利用できる」などの満足度が高くなっています。

一方、「中小企業や商店街に活気があり、商品販売額が増加している」や「雪に強いまちづくりや雪を資源として活用している」などの満足度が低くなっています。

(満足度上位5項目)



(満足度下位5項目)

